

主 审: 木村 富美子(日)
主 编: 刘芳 姜微 聂子钧

日本ドラマの時間——化け物物語

日剧时间



日语鬼魅 影视人生

日本影视动漫的超级粉丝

在欣赏日剧的同时,更能提高日语听力和口语水平。

主要分类: 百鬼夜谈、都市传说、民俗漫语

主要日剧: 小豆洗、雪女、人鱼、海坊主、船幽灵、野铁炮、狂骨、夜雀、乌鸦天狗、土蜘蛛、铁鼠、百鬼夜行、占卜师、神隐、雨夜的客人、人偶、恋爱咒语、民俗流传、香道——东大寺……



大连理工大学出版社

日本ドラマの時間——化け物物語

日剧时间



日语鬼魅 影视人生

主 审: 木村 富美子(日)

主 编: 刘芳 姜微 聂子钧



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语鬼魅影视人生 / 刘芳, 姜微, 聂子钧主编. —
大连: 大连理工大学出版社, 2012. 8
(日剧时间)
ISBN 978-7-5611-6770-0

I. ①日… II. ①刘… ②姜… ③聂… III. ①日语—
口语—自学参考资料 IV. ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 030203 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 传真: 0411-84701466 邮购: 0411-84703636

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

辽宁星海彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 165mm×235mm	印张: 20	字数: 421 千字
附件: 光盘 1 张		印数: 1~5000
2012 年 8 月第 1 版		2012 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑: 张 凡

责任校对: 李乐天 徐 双

封面设计: 嘉美和

ISBN 978-7-5611-6770-0

定 价: 31.00 元

前言

被冠以“妖怪列岛”的日本以妖怪文化著称，相传境内生活着600多种妖怪，其中有确切文字记载的就有300多种。日本人民富于幻想并热衷于怪谈，妖怪文化由平安时代开始发展，至江户时代达到鼎盛。明治维新后，由于“神佛分离令”的推行，妖怪文化曾一度陷入低谷。二战后，随着大量妖怪题材的小说、漫画问世，人们开始尝试从新的视角来审视古代典籍画册中出现的妖魔鬼怪，同时，科技发达的现代社会也衍生了许多新的都市传说。

妖怪文化的发展连带引发了一系列民俗、文化、惯用语等富含民族特色的文化、语言方面的积淀。光怪陆离的妖怪奇谈是日本这个民族涌动着的独具特色的鲜活血液，所以妖怪及妖怪文化是了解日本不可错过的亮点。近年来，作为新兴媒体的动漫、影视出品了很多涉及魑魅魍魉、怪事奇谈和民俗文化方面的经典之作，这些作品或原创，或翻拍，或遵循传统，或加以演绎，以崭新的姿态向我们提供了更鲜活的日本社会文化学习参考。

为了让更多的人通过欣赏日本动漫、影视提高自己的日语水平，了解日本的特色民俗，我们精心编写了这本《日剧时间——日语鬼魅影视百态》。本书精选了日本国内广为流传的十五部动漫、影视作品，截取了其中56篇以独立故事为题材的经典片段，按百鬼夜谈、都市传说、民俗漫语三章划分，力求寓教于乐，呈现出原汁原味的“百则怪谈”。

本书的构成如下：

剧情介绍——对所选影视片段的前后因果进行简要介绍，说明其对话语境。

出场人物——对所选影视片段的出场人物进行简单的汉语介绍。提示由于性别、性格、地位、年龄等不同而可能引发的语言的特殊使用现象。

台词欣赏——日文对白部分配有汉语翻译，利用本书配套光盘，通过收听影视原声欣赏人物的对话，达到学习语言的目的。

单词注释——对正文中出现的疑难单词进行了详细解释，以扩充读者的词汇量。

民俗大赏——对所选影视片段中所涉及的民俗常识进行简略介绍，帮助读者多角度地了解日本文化。因为日本各地对相同怪谈的传承有所不同，所以如果读者对相关内容感兴趣，可查找相关资料，进行更层次的研究。

本书在编写过程中得到了王赫男、张成琳、李晶、姜微、王秀珍、董靖、颜栾兰、孙鸿芳几位老师的热情参与，在此一并表示衷心的感谢。由于编写工作浩繁，失误在所难免，望广大读者不吝指正，以求共同进步。

编者

目录

0.00	百则怪谈 <xxxHOLiC10>.....	1
------	------------------------	---

第1章 百鬼夜谈

1.01	小豆洗 <巷说百物语01>.....	10
1.02	番町皿屋敷 <怪谈百物语05>.....	16
1.03	牡丹灯笼 <怪谈百物语06>.....	22
1.04	雪女 <怪谈百物语02>.....	27
1.05	柳女 <巷说百物语02>.....	31
1.06	人鱼 <续夏目友人帐08>.....	36
1.07	雨童女 <xxxHOLiC07>.....	41
1.08	座敷童子[1] <xxxHOLiC11>.....	46
1.09	座敷童子[2] <怪化猫01>.....	53
1.10	海坊主 <怪化猫05>.....	61
1.11	船幽灵 <怪化猫03>.....	68
1.12	海座头 <怪化猫04>.....	74
1.13	野铁炮 <巷说百物语08>.....	77
1.14	飞缘魔 <巷说百物语10>.....	85
1.15	狂骨 <捉鬼天狗帮16>.....	89

1.16	鸬 <滑头鬼之孙02>.....	94
1.17	鸬 <怪化猫09>.....	99
1.18	夜雀 <滑头鬼之孙23>.....	102
1.19	乌鸦天狗 <百鬼夜行抄03>.....	107
1.20	食鬼天狗 <捉鬼天狗帮01>.....	111
1.21	土蜘蛛[1] <xxxHOLiC继01>.....	116
1.22	土蜘蛛[2] <捉鬼天狗帮07>.....	120
1.23	蛇妖——白妙 <捉鬼天狗帮19>.....	125
1.24	芝右卫门狸 <巷说百物语06>.....	131
1.25	狐狸嫁女 <百鬼夜行抄11>.....	136
1.26	铁鼠 <捉鬼天狗帮09>.....	142
1.27	轮入道 <地狱少女 II 19>.....	149
1.28	文车妖姬 <捉鬼天狗帮14>.....	153
1.29	毛羽毛现 <捉鬼天狗帮18>.....	157
1.30	异邦妖怪 <少年阴阳师03、04>.....	163
1.31	狼男 <怪谈百物语11>.....	169
1.32	道祖神——露神 <夏目友人帐02>.....	174



1.33	百鬼夜行 <xxxHOLiC18>.....	178
1.34	黄泉之门 <少年阴阳师20、22>.....	182
1.35	式神 <百鬼夜行抄10>.....	192
1.36	诅咒之簪 <百鬼夜行抄07>.....	195
1.37	占卜师[1] <xxxHOLiC04>	203
1.38	占卜师[2] <百鬼夜行抄05>	209
1.39	除妖人 <夏目友人帐09>	214

第2章 都市传说

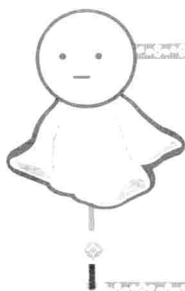
2.01	神隐[1] <怪谈餐馆04>	226
2.02	神隐[2] <捉鬼天狗帮03>.....	232
2.03	雨夜的客人 <怪谈餐馆03>.....	239
2.04	汽车阿姨 <怪谈餐馆07>	243
2.05	生灵 <野猪大改造03>.....	248
2.06	附身 <心灵侦探八云04>	254
2.07	彼世传来的振铃 <怪谈餐馆10>	258
2.08	人偶 <怪谈餐馆02>	262

2.09	梦 <野猪大改造10>.....	266
------	------------------	-----

第3章 民俗漫语

3.01	恋爱咒语 <怪谈餐馆16>.....	273
3.02	麻将 <xxxHOLiC◆继06>.....	276
3.03	民俗流传 <xxxHOLiC21>.....	281
3.04	厄日的接尾令 <xxxHOLiC05>.....	289
3.05	蒙眼捉迷藏 <百鬼夜行抄02>.....	298
3.06	香道——东大寺 <怪化猫09>.....	302
3.07	天谴 <野猪大改造10>.....	306





0.00 百则怪谈

<xxxHOLiC1o>



剧情介绍

时值酷暑，侑子提议大家举行百则怪谈，以清凉解暑。于是侑子、四月一日、百目鬼和小葵四人一起来到百目鬼家的寺庙，举行了一场百则怪谈。



出场人物

壹原侑子——大原沙耶香

实际上，“壹原侑子”并非其真名，真名不详。她拥有强大魔力，能够穿越次元和时间，预测未来，甚至可以创造异次元。作为能达成任何愿望的人，她自然也对其他世界的事相当清楚。

四月一日君寻——福山润

私立十字学园的高中生。天生具有看得见和吸引妖怪的能力，又因为这个能力而在另一个世界成为名人。雨童女曾说过：其本身的存在就是不可能的。

百目鬼静——中井和哉

四月一日的同学，年级委员，是一间庙宇住持的独生子，拥有除魔力量，因此邪灵不敢靠近，但他本身看不见妖魔邪灵。

九轩葵——伊藤静

四月一日的同班同学，也是其单恋的对象，是个有着清纯容貌及明朗个性的少女，拥有强大的精神力，对怪事不为所动，对于妖怪的存在及会说话的摩可拿也能若无其事地接受。





摩可拿（黑）——菊地美香

黑色的全名是“摩可拿·拉格·摩多基”（Mokona Larg Modoki），出自《魔法骑士》，是锡菲罗世界的“创世神”。另外还有一只白摩可拿。实际上，黑白两只摩可拿就是壹原侑子与库洛·里多看到锡菲罗创世神后创造出的仿制品。

摩可拿们拥有108项特殊能力。黑摩可拿特有的能力是驾驭妖魔。平素嗜酒，性格活泼搞怪、调皮可爱。

全露 & 多露——小岛和子 & 望月久代

侑子创造的两名侍童。



🌀 台词欣赏-1

侑子：夏のデートと言えば…。

モコナ：言えば…。

侑子：やっぱり…。

マル&モロ：やっぱり…。

四月一日：いや、あの…。

侑子：怪談でしょう。

モコナ&マル&モロ：イエーイ、怪談。

四月一日：全然、関係ねえし。

侑子：だから四月一日、さっそく百目鬼君にお願いしなさい。

四月一日：は？

侑子：怪談で大事なのは舞台設定。百目君のうちってお寺だったわよね？

四月一日：だから、それとこれと何の関係が。

侑子：お寺で部屋借りて百物語よ！

マル&モロ：百物語！

モコナ：デートだ、デート！

マル&モロ：百物語！

モコナ：デートだ、デート！

マル&モロ：百物語！

四月一日：だから、何で！



侑子：说起夏天的约会……

摩可拿：说起来……

侑子：当然是……

全露 & 多露：当然是……

四月一日：不，那个……

侑子：怪谈啦！

摩可拿 & 全露 & 多露：耶，怪谈！

四月一日：一点关系都没有！

侑子：所以四月一日，你赶快去拜托百目鬼君。

四月一日：哈？

侑子：怪谈最重要的是舞台设置。百目鬼君的家是寺庙吧！

四月一日：就算这样，但这两者有什么关联吗？

侑子：借寺庙的房间，讲百则怪谈。

全露 & 多露：百则怪谈！

摩可拿：约会呀，约会！

全露 & 多露：百则怪谈！

摩可拿：约会啊，约会！

全露 & 多露：百则怪谈！

四月一日：所以说，为什么？

台词欣赏-2

侑子：絶好の百物語シチュエーション¹ね。

四月一日：よかったのかよ、ここで百物語するの。隣、今日使うんだろう？

百目鬼：ああ、けど構わねえだろう。

四月一日：お前のことはいいんだよ。あんまし騒ぐとまずいだろうって。

百目鬼：だから、全然構わねえよ。

四月一日：かあー、適当だな。

侑子：さあーて、四月一日はこれ。

（水がたっぷり入った井を渡して）

四月一日：ああ。

1 シチュエーション：情况，场合。



侑子：そっちの裏鬼門²に置いてくれる？あとはこのロウソクを…。(ロウソクを点して) みんなも自分のロウソクにこの火を移して、隅の燭台に持って行って。そう、そこに立てる。これで準備はおしまい。本当は、もっといろいろあるのよ。ロウソク百本とか剃刀とか合わせを逆にするとか…。でも、今日は略式でいいでしょう。役者が揃ってるし。じゃ、百物語を始めましょう。じゃ、ひまわりちゃんから。

ひまわり：ある家族の話なんだけど。

侑子：绝佳的讲百则怪谈的氛围呢！

四月一日：可以吗？在这里讲鬼故事？隔壁今天有人吧？

百目鬼：嗯，不过没关系。

四月一日：不是说你啦。要是引起骚动的话就麻烦了吧。

百目鬼：所以说，完全没关系嘛。

四月一日：哼，随便你！

侑子：那么，四月一日，给。

(递给他一个盛满水的大碗)

四月一日：帮我放到“里鬼门”那边可以吗？然后这些蜡烛也要……(点燃蜡烛)大家也把自己的蜡烛点燃放在房间四个角落的烛台上。对，就是那里。准备工作完毕。本来还有更多要求的：一百支蜡烛啊、剃刀啊、还有反穿和服等等……不过，今天就简单一点吧。演员也都到齐了。那么，开始讲百则怪谈吧！就从小葵开始……

葵：我说的是一个家族的故事。

台词欣赏-3

百目鬼：無駄だよ。

ひまわり：ああー、怖かった。

四月一日：うんん…。

ひまわり：怖かったね。

四月一日：そ、そうだね。つか、もう一言オチ禁止な。

百目鬼：あー。

2 裏鬼門(うらきもん)：与东北方位的“鬼门”相对的西南坤位，在风水学中与鬼门同为禁忌、不祥之地。



四月一日：あーじゃねえだろ。

侑子：百目鬼君のお爺様は、ここの住職でいらっしゃるの？

百目鬼：そうです。もう死にましたけど。

侑子：幽霊とかよく見てらした？

百目鬼：みたいですわね。なんかその手の相談よく受けてたらしいし。

侑子：じゃ、百目鬼君の持ちね。

四月一日：は？

（扉がガラガラしている）

四月一日：ああ。こっちの部屋、誰かいるのか？

百目鬼：いるっちゃ、いるな。

四月一日：なんだよ、その半端な答え！家の人か？

百目鬼：いや、檀家の人だ。遺体だけだな。

四月一日：は？

百目鬼：預かってんだよ、葬式前に。

四月一日：だ、だれか、ご遺族とか一緒にいるんだよな？

百目鬼：いや、ご遺体だけだ。だから、「構わねえ」って言ったじゃねえか。

四月一日：じゃあ、じゃあ、向こうの部屋、窓開いてるとか。

百目鬼：向こうの部屋に窓はない。

侑子：だから、言ったでしょう？役者が揃ったって。

四月一日：役者って死体も込み込みだったんですか？もう！出よう、ひまわりちゃん。こんなところで怪談なんて、それこそ冗談じゃねえっての！

侑子：駄目よ。

四月一日：うん？

侑子：百物語の最中は、結界から出ては駄目。

四月一日：結界って…。

侑子：四本のロウソクで作った結界。今、この世界はその力で守られている。でも外のことは保障できないわ。

四月一日：それって、つまり…。

侑子：百物語が終了するまで、ここから出られないってこと。

四月一日：やっぱり。死体と一緒に怪談なんて、俺、ヤバイっすよ。

侑子：でも、まだ見えてないでしょう？アヤカシ。

四月一日：あり？そういえば…。ああ。

侑子：でも、さすがにこれ以上、場が盛り上がると…。

四月一日：と？





侑子：ひまわりちゃん。

ひまわり：はい？

侑子：このまま続けても平気？

ひまわり：はい。始めたことは最後までやらないと。

侑子：とりあえず、再開しましょう、百物語。

百目鬼：没用的。

葵：啊啊，好可怕！

四月一日：嗯嗯……

葵：恐怖吧？

四月一日：是……是啊！喂，不准再一句话结尾了。

百目鬼：哦。

四月一日：哦什么哦啊！

侑子：百目鬼的爷爷是这里的住持吗？

百目鬼：是的，不过已经去世了。

侑子：会经常看见幽灵什么的吗？

百目鬼：好像是的。而且好像经常有人来找他咨询这些问题。

侑子：那么，百目鬼君也有这个能力吧。

四月一日：诶？

（门扇嘎啦嘎啦作响）

四月一日：啊！这边的房间有什么人吗？

百目鬼：也可以说有。

四月一日：什么啊？这么暧昧的说法。是你家里的人吗？

百目鬼：不，是施主。只放了遗体。

四月一日：什么？

百目鬼：在葬礼前暂时放在那里的。

四月一日：好……好像还有其他亲戚陪着吧……

百目鬼：不，只有遗体，所以刚才我才说没关系。

四月一日：那，那么，旁边的房间开着窗子吗？

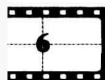
百目鬼：那个房间没有窗户。

侑子：所以我不是说了吗，演员都到齐了。

四月一日：你说的演员连尸体都……都算进去了吗？真受不了！我们走，小葵。在这种地方讲怪谈，开什么玩笑啊！

侑子：不行哦！在讲百则怪谈的过程中，绝对不可以走出结界。

四月一日：结界？





侑子：由四支蜡烛结成的结界。现在这个房间是由那个力量守护着的。可是，外面的世界可就难说了。

四月一日：那就是说……

侑子：在百则怪谈结束之前，不能从这里出去。

四月一日：果然！和尸体一起讲怪谈，我受不了！

侑子：可你不是还没看见妖怪吗？

四月一日：诶？这么说来……啊。

侑子：可是再继续下去的话……

四月一日：的话？

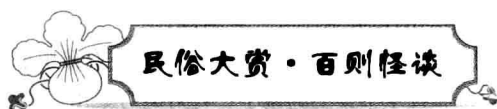
侑子：小葵。

葵：是。

侑子：继续下去没关系吗？

葵：没关系。既然开始了就要坚持到最后。

侑子：那么就继续吧，百则怪谈。



百物語は、日本の伝統的な怪談会のスタイルのひとつである。怪談話を100話語り終えると、本物の怪が現れるとされる。起源は不明である。

方法

寛文6年（1666年）の浅井了意による仮名草子「伽婢子」などによれば、伝統的な方法は以下のようなものである。

1. 新月の夜に数人以上のグループで行う。場所はそのグループの誰かの家、3間の部屋を用いる（2間でもよい）。3部屋の配置はL字型になっていると望ましい。
2. 参加者が集まる部屋は無灯。その隣の部屋も無灯。いちばん奥まった部屋に100本の灯心を備えた行灯と、文机の上に鏡を置く。行灯には青い紙を張る。
3. 参加者は青い衣をまとい、帯刀せず入室する。その他の危険物も部屋からは除去する。
4. 怪談話を1話かたり終えたら、手探りで隣の部屋を通して行灯のある部屋に行く。そこで灯心を1本引き抜いて消し、自分の顔を鏡で見、元の部屋にもどる。その間もグループは話を続けてよい。
5. ここで語られる怪談は、現在でいう幽霊や妖怪が登場する怪談話ではなく、いわゆる不思議話・因縁話などでよい。

これを続け、100話目を語り終え、灯心がすべて引き抜かれて真の闇が訪れたときに、なんらかの本物の怪が現れるとされる。





実行する際には、99話でやめ、朝を待つという。これは「怖いもの見たさ」ならぬ「怖い話聞きたさ」ゆえのひとつのレクリエーションでもあるため、本当に怪がおこっては困るからだと推測される。今でいう肝試し・度胸試しのひとつともいえ、武家において行われたともいわれる（しかし実際には一晩で百の話を語り終えるのは至難の業である。一つの話をも9～10分程度で終えるとしても15時間はかかることになるためだ）。

江戸末期からは行灯（灯心）の代わりに蠟燭を用い、それを怪談会の行われる部屋の真ん中に設置し、実際に百話をかたる会などが催されるようになったという。また、本物の怪の具体例として青行燈が現れるとするものなどもある。100話を語り終えた際、または会の途中に実際に怪が現れたとの記録も書物には残されているが、真偽の程は確かめようがない。

百则怪谈是日本传统怪谈会的一种形式。当100则怪谈故事讲述完之后，真正的妖怪就会出现。起源不详。

方法

根据宽文6年（1666年）浅井了意所著的假名草子《伽婢子》中的记载，其传统方法如下：

1. 在新月之夜，由数人的小组进行。地点是某个参加者的家中，需要准备3个房间（2间也可）。3个房间的话，以房间的格局呈“L”型为好。

2. 参加者所在的房间中没有灯，隔壁房间也没有灯。只在最里面的房间里放置有100根灯芯的行灯（方形纸罩座灯）和置于书桌上的镜子。行灯的灯罩用蓝色纸。

3. 参加者着蓝衣，进入房间时不能带刀，并且还要把房间里的其他危险物品清理干净。

4. 每讲完一则怪谈故事，需摸黑通过隔壁的房间，走到放有行灯的房间。然后，从行灯中拔出一根灯芯，将其吹灭，接着照一下镜子，再返回原来的房间。这个过程中，故事可以继续讲述。

5. 这里所说的怪谈，不是现在的所谓幽灵、妖怪的怪谈故事，只要是让人觉得不可思议的故事、因缘的故事皆可。

像这样继续下去，当第100则故事讲完，灯芯被全部拔出，真正的黑暗降临之时，说不定便会出现某个“货真价实”的妖怪。

当实际讲述时，讲完第99则故事便终止了，剩下的是等待清晨的到来。因为这毕竟是娱乐的一种，不是要“见到恐怖的东西”，只是“听听恐怖的故事”罢了，要是妖怪现身的话，那么就真的令人感到头疼了。可以说这就是今天所说的“试胆”的一种，在武家举行此活动。（可实际上，一个晚上很难讲完100则故事，因为假设一则故事按照8～9分钟来算，100个则需花费15小时的时间。）

实际上江户末期开始，就使用蜡烛来代替行灯（灯心），并把蜡烛放在举行怪谈会的房间中央来举行百则怪谈了。另外出现的怪物也具体化了，如青行灯等。当100则故事讲完之时，或怪谈会的进行过程中，真的会出现妖怪，这在现存的一些书籍中也有记载，但其真假无从确认。

